いのちの水をひく

水路で洗い物、水路のところどころに、各家の洗い場があり、屋敷にも引きこまれて水屋一台所一の中も水路が流れる。飲料水などの生活用水から田畑の農業用水としても使われる。いのちの水一である。

人が山にかこまれた未開の地に、くらしの根を張り生き抜いてこうとするなら、まずなによりも、いのちの種となる水をなんらかの形で手なずけなければならない。

升沢地区は、ともに荒川右岸の河岸段丘上に形成された、上流の升沢集落と下流の三島集落（字原・新田・横沢を含む）とからなる。古い開発の歴史を持つ升沢集落は、少なくとも遠縁時代から継続した村であることは疑いない。他方下原集落は、明治以降の移住や新田開発にともなう入植により形成された。

荒川沿いの深い谷を刻んで、谷底から段丘上に揚水することは困難で、水源としては遠さない。そこで、升沢では集落背側の段丘上を流れる升沢川に堰を設け、集落まで水路を拓いて導水し、水路は村じゅうの田畑、家々をめぐって、各戸の農業用水や飲料水ほかの生活用水としてまかなわれていた。この一系統の用水路は「代々のもの」と伝えられ、この地に村が開かれるとき、まず、いのちの水を引くために水路が拓かれたのであろう。一方升沢川のない下原では、集落南側の山に湧くいくつもの沢水を、数軒ずつで引きこんで用水とし、多系統の水利用がなされていた。

井戸のツルベ

水田保温

洗い場

水屋の中

洗い場

生簀

生簀

水路から水を流して融雪

洗い場

洗い場

洗い場

池

合流

水屋部分

水屋部分

側溝分岐

側溝の分岐

せき一部水路

分岐

合流

水源 小坂沼

水源 湧き水

水源 升沢川

分水路

せき一バイパス